様式(細則5-2)

令和元年6月6日

浜田市議会議長　川神　裕司　　様

議員名　　道下　文男　㊞

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1．期　　間　　令和元年6月4日

2．視察内容　　「寺子屋」事業について

3．視察先　島根県松江市雑賀公民館（松江市教育委員会）

4．調査経費　　1,141　円
（内訳）

浜田市役所で待ち合わせし、道下議員の自家用車にて高速道経由で雑賀公民館まで往復した。

	金　額	備　考
高速道路通行料	3,280円／5名＝　656円／1名	浜田⇔江津、斐川⇔松江玉造
自家用車燃料代	2,428円／5名≒　485円／1名	浜田⇔雑賀公民館≒135ｋｍ
合　計	5,708円／5名≒1,141円／1名	

5．調査研究活動の概要

下記のとおり、調査研究のため視察を行ったので報告します。
（メンバー：　西川真午、飛野弘二、笹田卓、永見利久、道下文男）

	松江市	浜田市
市長	松浦正敬71歳14年	久保田章市67歳5年
地理	宍道湖、中海を抱く風光明媚な水の都。古代出雲文化圏の中心地で、15年に天守が国宝に指定され、18年に中核市に移行した。	旧石見の国の中心地として栄え、山陰を代表する軍都であったが、現在では水産都市として機能している。
市町村合併	05年に松江市、鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町が、11年：東出雲町が合併。	05年に浜田市、金城・旭・三隅町、弥栄村が合併。

浜田市議会 受付 1.6.6 号

特産品	八雲塗、出雲石灯ろう、出雲めのう細工、袖師焼、布志名焼、楽山焼、火の川焼、大和しじみ、玄丹そば、牡丹、津田かぶ	どんちっち三魚、のどぐろ・かれい一夜干し、赤天、石州和紙、石見神楽面、赤梨、西城柿 (酒)やさか仙人、環日本海、弥栄のどぶろく
観光	松江城、興雲閣、ホーランエンヤ伝承館、小泉八雲伝承館、明々庵、堀川遊覧船	海洋館アクアス、マリン大橋、石見畳ヶ浦、石見神楽
面積	573 ㎢	691 ㎢
人口	203,000 人	54,000 人
人口密度	354 人／K㎡	80 人／K㎡
高齢化率	27 パーセント	33 パーセント
歳出決算総額	972 億円	385 億円
自主財源比率	40.5 パーセント	34.0 パーセント
財政力指数	0.57	0.41
実質公債比率	15.1 パーセント	10.1 パーセント
将来負担比率	119.9 パーセント	72.3 パーセント
職員数／千人	11.7 人	12.15 人
議員定数	34 人	24 人

6、調査報告

（1）調査に至った経緯

・道下議員が、松江市の「寺子屋」事業を４月の新聞記事で知り、他の議員にも呼びかけて視察することとした。

（2）調査内容

・案内.....「議会事務局 議事調査係」月森 専門企画員

・説明.....「教育委員会 学校教育課」後藤 小中一貫教育推進係長

・ 〃 .....「教育委員会 生涯学習課」渡辺 社会教育主事

・ 〃 .....「松江市雑賀公民館」 赤木 公民館長

ア）取組の経緯

◆松江市は、2016 年度の全国学力テストの調査で、市内の中学３年生のうち、平日１日当り１時間以上の家庭学習をした生徒数は全体の半数にとどまり、割合は全国平均の▲15.4 ポイントであった。

◇そこで、市教委が、一部の公民館などが小中学生や高校生を対象に進める学習支援の仕組みを全市に拡げようと計画。家庭学習を支援すると共に、共働き家庭の子どもの居場所づくりなども狙い、小中学生を対象に事業を始めた。

◇事業の対象は、各地域で立ち上げた運営委員会から市教委が選んだ。

◇実施時期や教科、教え方などは各運営委員会に任せた。

◇17 年度中に 36 回の実施を上限とし、講師料や消耗品費などを補助した。

◆市教委は現在、放課後の支援事業として

①小学１～３年生を対象にした、放課後の「児童クラブ」

②全小学生が、1～2回活動／週の「放課後子ども教室」

などを展開している。

イ）事業概要

・放課後や休日に公民館や学校で、教員ＯＢ・大学生・地域住民・公民館職員が、自主学習を基本とした小・中学生の学習支援や居場所づくりに取組む。

ウ）実施回数

・原則として、2回／月以上 or 24回／年以上

エ）補助金

・指導員謝金（交通費含む）：max1,000円／時間の他、保険料や運営消耗品など、max236,000　　円を補助する。

オ）実績（３年間）

	実施館数	参加児童数
平成２９年度	７	４１９名
平成３０年度	１１	６９２名
令和１年度	１３	８００～1,０００名（目標）

カ）成果（抜粋）

・始めと終わりの号令を子どもたち実施させていて、集中して取組んでいる。

・子どもたちの居場所が出来て、満足そうである。

・指導するほうも、子どもたちや地域の方と交流が進み満足とのことである。

キ）課題（抜粋）

・参加児童が多く、部屋不足のところがある。（逆のところも）

・来てほしい子ども（学力向上、家庭で十分見てもらえない）が来ていない。

・指導員の確保が難しい。

ク）今後の方向性

・実施団体の拡充（モデル等の掲示）

・実施団体と学校との連携

・家庭学習の充実と、地域で子どもを支える環境づくり

コ）まとめ　【雑賀公民館長（赤木さん）】

平成30年度実施したところは、全館今年度も実施の意向であり、それぞれ「手ごたえ」を感じたことが大きな理由である。参加した子どもたちだけでなく、保護者や地域、学校からも高い評価を得ている。

一部では、目的をもっと明確にしてとの意見もあるが、誰もが参加できる場を設定していく中で、もっと学校と連携を強化してこの事業を拡充していく工夫が必要である。

来年度は、現在の形で継続しながらより充実したいと考えているところがほとんどであるが、自学だけでなくより積極的な学習の場を設けたいと考えているところも少なくない。

また、現在の事業は補助金があるから実施できている部分が大きいので、予算面でより一層の松江市の支援が必要だと考える。

終わりに、全体ではこの事業を必要性を感じていないという公民館が多いが、地域や学校の実態、公民館の立地などによって状況は異なるが、地域や学校の声を十二分に吸い上げて可能

な限り「まつえ寺子屋」事業を実施するところが増えていこことを期待している。

（3）所見

まずは、議会事務局、教育委員会、それに雑賀公民館職員みなさんの極めて笑顔あふれる良心的なもてなしに感動を覚えた。

そして、的を得た非常にわかりやすい資料だなと感じた次第でもあり、何より赤木公民館長の、子どもたちへの教育に対する「熱い思い」がひしひしと伝わってきて、その思いをサポートする後藤小中一貫教育推進係長と渡辺社会教育主事の「まつえ寺子屋」事業に対する熱心さも並々ならぬものであるなと感じた次第であった。

10年、20年先を見越した浜田市のためにも、また浜田市の子どもたち自身のためにも、子どもたちの学力を全国平均、あるいは、せめて島根県平均並みに上げる取組を早急に図るべきであって、「まつえ寺子屋」事業は、極めて参考になる取組であると考えた。